

太 白 山

(平成29年12月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

生活指導委員会について

副園長 鈴木 仁

学園では、入所児童がけんかなどで他児に迷惑をかけたたり、暴力行為を行ったり、学園での禁止行為を行うなどの問題行動があった場合に、生活指導委員会を行っています。

今年度は11月末までで41件実施しました。平均すると月に約5件実施していることとなります。

この委員会には、学園の園長以下担当職員、分教室の教頭以下担当教員が参加し、児童から問題行動の事実を確認した上で、その内容に応じて、個別日課一日から三日を課します。

児童は、集団活動から離れて、作業や作文などに取り組み、その中で、自分の課題に向き合い、なぜ問題行動に至ったのかを振り返り、今後同じようなことをしないためにどうしたら良いか、職員との面接・指導を受けながら、じっくり考え、反省することになります。

個別日課の最終日に、再度、委員会を開催し、児童から反省した内容を述べてもらい、しっかり反省できていれば、個別日課は終了となり、通常の日課に戻ります。反省ができていない場合は、延長になることもあります。

委員会では、いつもより厳粛な雰囲気の中で、多くの児童は神妙な面持ちで反省の弁を述べ、職員から励ましの言葉を受けるなど、児童にとっては、改めて学園での生活の目的や意義を考える良い機会になっているように感じています。

中には、何度も委員会にかかる児童もいますが、失敗を経験しながら、自分の課題が改善できるよう、一步一步成長していったほしいと思っています。

さわらび学園祭

実行委員長 本多 清孝

夏休みが終わると、分教室から和太鼓の力強い音色が聞こえてきます。はじめはバラバラな音も、だんだんと力強く、心に響く音色になってきます。

職員も、子ども達に負けていられないと学園祭の準備にとりかかります。まずは担当の児童と、意見発表会で披露する作文を作り上げます。基本的には児童が主体で作成しますが、添削などを通して、児童と担当職員の合作となります。作文の内容は、担当職員のこと、スポーツのこと、今後の目標

など様々ですが、心のこもった発表となります。

学園祭では、和太鼓と意見発表のほか、児童、職員全員での合唱も行います。職員、児童合わせた「オールさわらび」での合唱は、非常に素晴らしいと感じています。

学園祭を通して、学園、分教室での頑張りをお伝えできるような、今後とも児童、職員ともども頑張っていきたいと思えます。

児童作文

「学園祭についての思い出」

中学二年 Y

僕は、学園祭をするまでの間、たくさん準備するものや、練習することがありました。意見発表会の原稿作りでは、何をテーマにして書こうか必死で考えました。そして、どういった展開で書こうかも悩み、一週間かけて清書も終わらせました。読みの練習では、はつきりと言うように努力しました。全体練習は、少し遅れる時や少し早くなる時がありました。本番は「大事な時に噛んだらどうしよう」と思いました。しかし練習どおりにできたので良かったです。

和太鼓は、幼稚園の時にやったことはありました。でも10年前の時だった

ので、基礎的なことからしていき、ならしていききました。パートは二番太鼓で、覚えるのは早くできたのですが、二番太鼓の他の人と合わせないといけないので、僕のスピードに合わせてもダメだし、他の人のスピードに合わせてもだめなのです。なので、合わせるのに時間がかかりました。全体練習では、終盤の楽譜を見て一生懸命やりました。本番ではノーマスでいけたので良かったです。

合唱は、和太鼓の前に練習しました。歌詞を覚えるのに二週間くらい、それプラス、音程も覚えなれないといけないので、難しかったです。年長生、学園職員と合わせて歌うと、周りの声で間違え時もありました。本番は、和太鼓と同じくノーマスでできたので良かったです。

学園祭の様子



分教室生活・行事

分教室教諭 土井 清文

これまで分教室では多くの行事を行ってきました。学園、分教室の職員が一体となり、協力して企画・運営したこと、子供達が一つ一つの行事の成功を願い一生懸命に頑張ったこと、どの行事も達成感のあるものになったと思います。今回は、その中でも学童農園について取り上げたいと思います。

学童農園は、近郊の農園をお借りして水稻の栽培から収穫までを経験し、収穫祭でいただくという一連の学習をするものです。5月に行われた田植えでは、素足で泥の中に入り稲の苗を植えました。休憩時間を惜しみながら熱心に作業する子供もおり、農園の方からここ数年で一番植え方が上手だと褒めていただきました。稲刈りでは、季節外れの暑さの中、みんなで最後まで作業をやり抜きました。脱穀までは終わりませんが、すべての稲を手作業で刈ることができました。

最後に、どの活動においても感謝の気持ちを忘れることなく取り組めたことが、子供達にとって何者にも代えがたい、大きな収穫だったように感じ、うれしく思います。

分教室生活の様子



心理士より

心理士 田丸 陽一

さわらび学園(以下学園)には、「さわらび学園入所児童倫理綱領(子どもの守る約束)」というものがあり、児童はそれを守るものと定められています(入所式では「子どもの守る約束」として児童にも宣誓してもらいます)。その綱領の一番初めには、「いじめや暴力は絶対にしません」と掲げられております。学園が最も大事にしている理念の一つであると認識していますし、心理士としても、それが達成できるように日々児童を応援しています。

例えば、応援の一つの形として、グループワークを定期的に行っています。学園で生活している児童の中には、感情のコントロールに課題を持つ児童が少なくありません。したがって、

今年度は「アンガー(怒り)・マネジメント(管理)」をテーマにして、イライラや怒りの感情などを適切にコントロールするための方法や考え方を学んでもらっています。児童の取り組む姿勢や感想は千差万別ですが、回を追うごとに、自分の問題として捉える児童が少しずつ増えてきているように感じます。おそらくどの児童にも「問題に向き合いたくない自分」と「問題に向き合いたくない自分」が併存していると思います。自分の非や間違いと向き合うことは難しいことですし、自信に乏しかったり、傷付きが深かったりする児童にとっては尚更でしょう。実際に失敗してしまつたときに、失敗と向き合い切れないことも多々あるでしょうから、グループワークのように気持ちが落ち着いているときに自分と対峙する時間は児童達にとって自分理解を深める良い機会になつているものと思います。これからの課題は、グループワークで学んだことを生活場面で練習し、自分のものにしてもらうことです。入園中だけでなく、退園後も安心安全な生活を送ってもらいたいという願いを込めて、今後もグループワークに取り組んで参りたいと思います。

作業係より

作業係担当 日下 善貴

今年度も環境整備、農作業を軸に作業活動を行ってきました。

農作業では育てるだけでなく、食するまでを大切に行ってきました。きゅうりやナスは漬け物に、トマトはトマトパスタに、梅は梅シロップのジュースに、白菜はキムチに、かりんはかりんシロップに、じゃがいもはポテトチップにはじまり様々なアレンジ料理に・・・。

現在、学園で夜食が園から出るの、およそ週一回です。自分たちで収穫した野菜を、自分たちで調理して食べるのが出来ます。育ち盛りで食欲旺盛な子どもたちは、工夫して調理しおいしく食しています。普段、進んで野菜を食べない児童も、この時ばかりはおいしそうに食べています。飽食の時代にあつて、野菜本来の美味しさを味わえるだけで、作業の意味があると思います。

今年、新たに児童にアンケートをとり、自身の作業の取り組みに対しての評価を行いました。作業は何のためにやるのか、ただ機械的に行うのではなく、目的意識を持ちながら、今後も作業活動に取り組みたいと思います。

クリスマス会

実行委員長 菅原 洋

12月20日クリスマス会が行われました。出演した子ども達は、歌やダンス、コント、ジャグリング、バスケット等、素晴らしいパフォーマンスを披露し、会を盛り上げてくれました。

それぞれのグループが、仮装や女装、演出等、工夫をこらしパフォーマンスする姿。普段は控えめな子が、無邪気にはしゃぎ、パフォーマンスする姿は、普段と違った子ども達の一面を見る機会となりました。

今回、人前で芸を披露する子ども達の姿を見て、「自分にはなにもできない」と自分自身で決め込まないでほしい。他人の枠にとらわれず、自分の可能性に目を向けてほしい。自分自身の可能性に気づき、自分の好きな事に情熱を注いでほしいと、感じたクリスマス会となりました。

児童作文

「クリスマス会」

児童 中学三年 Y

12月20日に、クリスマス会が子ども会によって催され、分教室・学園の先生方、児童一人ひとりがこの日のために歌や劇、漫才などを披露しました。

その中でも、緊張で歌えなくなったりした人もいたけれど、見ている側の「頑張れ」というかけ声や拍手などがあり、とても良い雰囲気でした。また、分教室の先生方による発表は、映像と劇を合わせた新感覚の発表で、とてもおもしろかったです。

また、全体の発表を見ていて、思ったことが二つあります。一つ目は、二寮は勇気がある人が多いと言う事です。特に男子一人で、西野カナの「トリセツ」を歌っていてびっくりしました。二つ目は、一人ひとりが準備や練習を意欲的に、マイナス発言なく取り組むことが出来ていて凄く良かったです。

最後に、クリスマス会を終えてみて、「毎日この良い雰囲気だったら良いな」と思いました。

クリスマス会の様子



食育係より

食育担当 山本 洋子

子どもたちの健康を考えて栄養士さんがメニューを考えてくださっています。学園に来るまでは、朝ご飯を食べていなかったり、好きなものしか食べていなかったりする子どもたちに、毎日三食の食事を取ってもらおう事で、食事のありがたさ、健康について気に掛けてくれたら良いなと思っています。

行事ごとに出す特別なメニューは子どもたちも楽しみにしていて、特にお誕生日のリクエストメニューは、自分の好きな物をお願いできるので、子どもたちはわくわくしながらアンケート用紙に記入して、当日を待ちわびています。

好き嫌いや食の細さで食事を残してしまったり子どももいますが、少しずつでも食べられるものが増えていってくれたら良いな、と思っています。

先日、中国料理師会のみなさんに豪華な中華料理を作っていた際、感謝の気持ちを込めて残さず食べようとすると児童もいて、心が温かくなりました。

これからも、食事をおいしく食べてもらえるように伝えていきたいです。

広瀬寮長より

広瀬寮長 遠藤 敏博

広瀬寮は小学3年生から年長までの幅広い年齢層の10名の児童と寮長含め6名(男・5、女・1)の職員で生活しています。

年間目標は、自分達に何が必要か? どうしたら良い寮になるか?とみんなで知恵を絞り、メインスローガンが「人に優しく・自分に厳しく」で、それを達成する為のサブスローガンが「ケジメ大事」「身体接触を減らす」「正しい言葉使い」「整理整頓・小さなくずれから大きなくずれに」となりました。打ち上げた花火は大きく華やかですが、年齢差や個性豊かで価値観の違いもあり、中々一致団結して頑張ろうとはならず、何かとトラブルや指導の絶えない毎日を送っています。それでもめげずに明るく元気なのが広瀬寮の良い所で、児童の笑顔に癒やされ元気を貰ったりして職員も頑張っています。ぶつかる事もあります、何だかんだあっても、結構職員と児童の仲が良いところが一番の自慢かもしれません。これからもドタバタした毎日の中で、児童が課題と向き合い成長し、元気に学園から巣立っていく様に応援していきたいです。

学習係より

学習係 色川 洋二

今年度の学習係の大きな柱として、①自習時間の充実、②漢字検定への挑戦、③園内模試・外部模試の実施、を設定しました。

一つ目の自習時間の充実では、入所するまでは家庭学習の時間を設けることが困難で、学習内容の習得もままならなかった児童が多かったかと思えます。学園ではそうした学習習慣を身に付けさせたいと考え、分教室との連携を生かし、授業で学んだことを復習としてノートに記述する時間を設け、学習の理解に取り組むこととしました。さらに、振り返りとして自己評価を行い、自らの取り組みを記録として残し、その取り組みを外出許可証の審査にも生かすようにしました。その結果、より多くの児童が外出許可証を取得することができました。二つ目の漢字検定は年3回実施しました。各寮での学習をもとに事前説明や強化期間を設けて取り組み、今年度は三級取得者五名、準二級取得者が一名と例年にならない結果となりました。他にも各級で多数の合格者が出ました。三級以上になると、高校進学のための調査書や就職のための履歴書に

記入できることから、今後も計画的に取り組んでいきたいと考えています。最後に園内模試・外部模試の実施です。中二や中三になると自らの進路について考えるようになります。そこで今後、進路選択の材料の一つとなるように園内模試を7月に一回、外部模試を希望者のみに限り7月から毎月一回実施しました。結果には総合成績の他に、志望校診断も掲載されており、今後の進路決定に際して重要な参考材料となりました。

これらすべては、日々の積み重ねが大切であり、われわれ職員も個に応じたきめ細かな指導・支援をし、児童一人一人の自己実現へ向けて、オールさわらびで取り組んでいきたいと思えます。



学園・分教室の今後の予定

12/28 一時帰省開始(学)
平成30年

1/4 一時帰省終了(学)

1/9 休業明け集会(分)

1/18 新春の抱負発表会(分)

1/24 私立高校A日程(分)

1/26 私立高校B日程(分)

1/31 高校前期試験(分)

2/8 高校前期合格発表(分)

2/14 期末試験(分)

3/2 卒業証書授与式(分)

※(分)分教室行事・(学)学園行事

編集後記

今年も残すところあとわずかととなり、児童と職員はあわただしく大掃除等に励んでおります。

学園は、児童の成長や課題を共有する機会として、面会や帰省の機会を大切に考えています。家族からの励ましの言葉をきっかけに、急成長したお子さんもいます。

年が明けると中学三年生は受験を迎え、人生初の試験の場に直面します。受験生の中には、受験に向き合いきれずに、葛藤しているお子さんもいます。面会や帰省の最後には、ぜひ励ましの言葉を宜しくお願いします。